

イ. 受験種別共通(全員が解答)

※ 問題番号〔No,1〕～〔No,14〕までの14問題のうちから9問題を選択し、解答してください。

〔No,1〕 通風及び換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 風圧力による自然換気では、換気量は開口部面積と風速に比例する。
2. 換気回数とは、1時間当たりの換気量を室面積で除した値である。
3. 室内での二酸化炭素発生量が多いほど、必要換気量は多くなる。
4. 室内を風が通り抜けることを通風といい、もっぱら夏季の防暑対策として利用される。

答え・・・2

面積でなく容積で割る。

〔No,2〕 換気の方式に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 自然換気方式には、屋外の風圧力を利用する方法と、室内外の温度差を利用する方法、又はそれらを組み合わせた方法がある。
2. 全般換気とは、室内全体の空気を外気によって希釈しながら入れ替える換気方式のことである。
3. 局所換気とは、局所的に発生する汚染物質を発生源近くで、捕集して排出する換気方式のことである。
4. 給気系のみを送風機を設けた第2種機械換気方式は、室内で発生した汚染物質が他室に漏れてはならない室に適している。

答え・・・4

2種換気は室内正圧方式なので室内が汚染する室(ボイラー室や湿気・臭気の発生する浴室トイレなど)には適していない。排気用換気扇のみ設ける3種換気が適当

〔No,3〕 昼光に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 昼光は、直射日光と天空光に大別され、天空光は太陽からの光が大気中に拡散したものである。
2. 昼光率は、室内のある点での天空光による照度と、屋外の全天空照度との比率である。
3. 室内のある点における昼光率は、時刻や天候によって変化する。
4. 室内の要求される基準昼光率は、居間より事務室の方が大きい。

答え・・・3

昼光率は室内外の明るさの比なので、基本的に時刻や天候により大きく変化することは無い。

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>